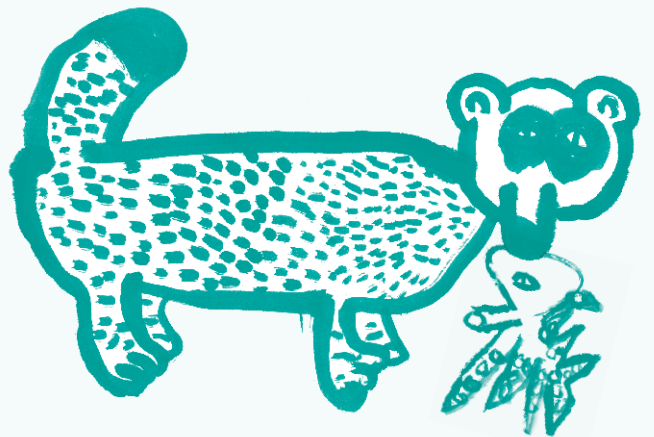
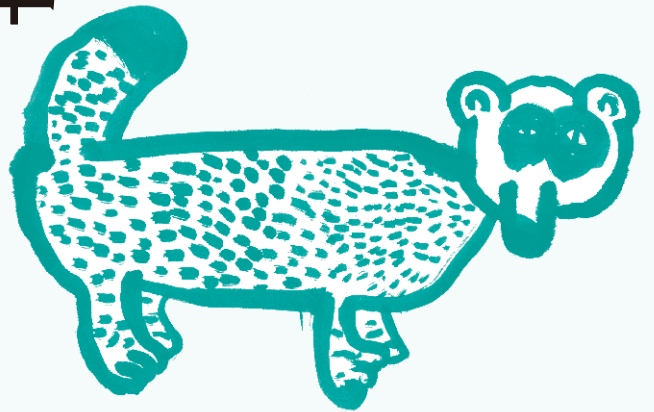
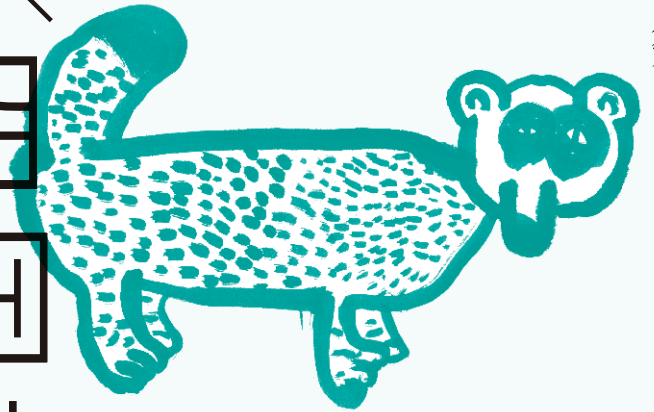


# 屋島 四国村



# S P R I N G

S E T O U C H I  
T R I E N N A L E  
2 0 1 9

## 【イベントチケットのご購入】

作品鑑賞パスポートのご提示でチケットの料金が割引となるイベントがあります。  
その他、詳しくは公式ウェブサイトをご覧ください。

## 【前売券】 □オンラインで購入

パソコン / 携帯電話 / スマートフォンからオンラインでお買い求め頂けます。  
・イープラス < <https://eplus.jp> > にアクセス & 「瀬戸内国際芸術祭」で検索!  
・ピーティックス < <https://peatix.com> > にアクセス & 「瀬戸内国際芸術祭」  
で検索!  
□窓口で購入 | 瀬戸内国際芸術祭2019の会期中、高松港総合案内所、宇野港案内所にてお買い求め頂けます。

【当日券】 当日券は各イベント会場でのみ販売します。

イベントの情報専門のSNSはこちら → facebook:  
twitter: @setouchi\_events



主催：瀬戸内国際芸術祭実行委員会

【お問合せ】 瀬戸内国際芸術祭実行委員会事務局  
〒760-0019 香川県高松市サンポート1-1 高松港旅客ターミナルビル3F  
TEL | 087-813-2244 E-MAIL | [info@setouchi-artfest.jp](mailto:info@setouchi-artfest.jp)  
<https://setouchi-artfest.jp/>

## 四国村って？

四国村(四国民家博物館)は源平の古戦場として知られる屋島山麓の地に、四国各地から古い民家を移築復原した野外博物館です。自然あふれる約50,000m<sup>2</sup>の敷地には、江戸~大正期にかけての地方色豊かな建物が配置されており、当時の生活の様子がうかがえるよう、たくさんの民具も展示されています。安藤忠雄氏設計「四国村ギャラリー」では、絵画や彫刻、オリエントの美術品などを展示し、四国村の新たな一面を見ることができます。また、四季折々の植物が植えられており、季節の移り変わりを感じながら先人たちの智恵や工夫、文化に触れることができます。お食事・休憩には、茅葺きの古民家を改装した手打ちうどん店「うどんのわら家」、神戸の異人館を移築した「ティールーム異人館」をご利用いただけます。

四国村(財団法人 四国民家博物館)  
〒761-0112 香川県高松市屋島中町91  
[info@shikokumura.or.jp](mailto:info@shikokumura.or.jp)  
TEL:087-843-3111 / FAX:087-844-1831  
<https://www.shikokumura.or.jp/>



【開村】8時30分(年中無休) 【閉村】18時00分(4月~10月) / 17時30分(11月~3月)  
※入村は閉村の1時間前までとします。  
※5/5(日・祝)、7/20(土)、10/5(土)はイベント開催のため17時閉村です。(入村は16時まで)

## 【入村料】

一般1,000(900円)、高校生600(500円)、小中学生400(300円)  
※企画展開催期間中は料金が変動します。(期間は都度変動しますのでご了承ください)  
※下記の方は割引が適用されます。  
●障がい者手帳ご提示の方 ●各種割引券等ご持参の方 ●25名様以上の団体  
※幼児は無料 ※高齢者割引はございません ※ペットも条件付きで入場可能です  
※瀬戸内国際芸術祭2019期間中に作品鑑賞パスポートを提示された方は入村料が半額になります。

## 【駐車施設】

無料駐車場 あり(バス5台、普通車200台)

## 【アクセス】

JR高松駅から高德線でJR屋島駅、もしくは、ことடன்高松築港駅からことடன்志度線でことடன்屋島駅に行き、そこから「屋島山上シャトルバス」で四国村に向かいます。



猪熊弦一郎「私の好きなもの」1946年  
©公益財団法人ミモロ美術振興財団

瀬戸内国際芸術祭2019 県内連携事業  
四国村ギャラリー 特別企画展開催  
猪熊弦一郎展  
「私の好きなもの  
~ My Favorite Things ~」

【会期】  
Part1 4月26日(金)~7月13日(土)  
Part2 7月19日(金)~9月8日(日)

映画 | E24

5.5 sun 19:00 ~ 21:00 (開場 18:30)

坂本頼光×鈴木広志×大口俊輔×小林武文  
「キネマと音楽の夕べ in 屋島」

Raiko Sakamoto, Hiroshi Suzuki, Shunsuke Okuchi, Takefumi Kobayashi  
A Night of Kinema and Music in Yashima

【会場】 屋島・四国村・小豆島農村歌舞伎舞台

【料金】 前売り¥1,500、当日¥2,000、バスポート割引¥1,800、小中高¥1,000(前売り・当日とも)  
無料送迎バス付(高松駅発着)※ 一般前売 ¥1,500、小中高¥1,000  
※無料送迎バスは、こちらのチケットをお持ちの方のみご乗車いただけます。  
チケットは、Peatixまたは総合案内所にて販売。完売の際は、何卒ご容赦ください。



【上映作品】  
『子宝騒動』(1935年/松竹蒲田/監督=斎藤寅次郎/主演=小倉繁)  
『無理矢理ロッキー破り』(米国/1927年/モンティ・バンクスエンタープライズ/監督=ジョセフ・ヘナベリー/主演=モンティ・バンクス)  
『漫画 癩取り』(1929年/横浜シネマ商会/漫画=村田安司/アニメーション)  
【出店予定の飲食店】  
六ろく(カレー)、時宅(ホットミール)、HIGHFIVE COFFEE(コーヒーほか)

現在放映中のNHK 大河ドラマ『いだてん』の音楽を演奏し、舞台・映画・ファッションショーなど世界中で幅広く活動する気鋭の音楽家3人によるオリジナル楽曲の生演奏と、鬼才・坂本頼光による活弁で20世紀初頭の名作無声映画に魂を吹き込む。星空の下、農村歌舞伎舞台上で繰り広げるスペクタクルな無声映画の上映会。

※未就学児のお子様は保護者様の膝の上で鑑賞される場合は無料です。お席が必要な場合は小中高生のチケットをご購入ください。  
※小雨決行(荒天中止)。客席には屋根がありません。雨天の際は、雨具を各自用意ください。

坂本頼光(活動弁士)、鈴木広志(サクソフォン)、大口俊輔(ピアノ・アコーディオン)、小林武文(パーカッション)

2009年夏に初演。以降、日本各地の美術館、芸術祭、イベント等に出演。喜劇、時代劇、人情話、ファンタジー、アニメ等、国内外の様々なジャンルの無声映画作品を、居酒屋から大ホールまで、あらゆる場所で上演。無声映画の他、島根県益田市の歴史を題材にしたアニメーションの脚本・監督・作画を坂本頼光、サウンドトラックを鈴木・大口・小林の3名が作曲・演奏を担当して制作した「ヒストリー・オブ・益田市」のDVDが2013年秋に完成、漫画家・上野顕太郎の作画、脚本による電腦紙芝居「桃太郎」の上演、水木しげる作品の「原始さん」の上演、また、島根県立石見美術館では、所蔵美術品をテーマに作曲・生演奏、坂本頼光が作品解説を行う、ギャラリートーク企画が好評を得るなど、幅広い活動を続けている。

〈北川フラム総合ディレクターと行くスペシャルツアー〉

高松駅を16時10分に出発、県立ミュージアムを観覧。  
「わら家」にて夕食後、指定の良席にてイベントを鑑賞していただくツアー。  
旅行代金：8,000円(バス代、夕食代、四国村イベント優先チケット、添乗員代、香川県立ミュージアム観覧料含む)  
こちらは琴平バスが企画実施するオリジナルツアー商品です。詳細・お申込みは琴平バス瀬戸芸ツアーサイトをご覧ください。https://setouchi-artfest.kotobus.com/

瀬戸内国際芸術祭2019と四国村

海の復権

「島のおじさんおばあさんの笑顔を見たい。」—そのためには、人が訪れる“観光”が島の人々の“感幸”でなければならず、この芸術祭が島の将来の展望につながって欲しい。このことが、当初から掲げてきた目的=「海の復権」です。  
有史以来、日本列島のコブクロであった瀬戸内海。この海を舞台に灘波津からの近畿中央文化ができたこと、源平、室町、戦国時代へとつながる資源の争奪の場であったこと、北前船の母港として列島全体を活性化させたこと、朝鮮通信使による大切な大陸文化の継続した蓄積の通路であったことは、その豊かな物語の宝庫でした。しかしこの静かな豊かな交流の海は近代以降、政治的には隔離され、分断され、工業開発や海砂利採取等による海のやせ細りなど地球環境上の衰退も余儀なくされました。そして世界のグローバル化・効率化・均質化の流れが島の固有性を少しずつなくしていく中で、島々の人口は減少し、高齢化が進み、地域の活力を低下させてきたのです。私たちは、美しい自然と人間が交錯し交響してきた瀬戸内の島々に活力を取り戻し、瀬戸内海が地球上のすべての地域の「希望の海」となることを目指し、瀬戸内国際芸術祭を開催しています。  
4回目の芸術祭となる瀬戸内国際芸術祭2019においても、これまで同様、海に囲まれどこからでもアプローチでき、農・工・商が混在した原初の人びとの存在を教えてくれる瀬戸内の島巡りを通し、この先地球上に人が生きること、展望を持つことを考えながら、プロジェクトを展開していきます。  
瀬戸内国際芸術祭2019は、会期が春、夏、秋に分かれており、4月26日～5月26日を「ふれあう春」、7月19日～8月25日を「あつまる夏」、9月28日～11月4日を「ひろがる秋」の3シーズンに瀬戸内海に浮かぶ12の島と2つの港を会場に、アートプロジェクト・イベントが開催されます。

音楽 | E35

7.20 sat

切腹ピストルズ  
せっぽくびすとるず・神出鬼没  
「村つくる」の巻  
Seppuku Pistols Setouchi Tours

【会場】 屋島・四国村

【料金】 前売り¥1,000、当日¥1,500  
バスポート割引¥1,300  
小中高¥800(前売り・当日とも)  
※6月中旬よりチケット販売予定



和楽器パンクバンド切腹ピストルズが、四国村で「村をつくる」の巻を展開。10:00～15:30まで四国村のあちこちの古民家で隊員による「下駄の鼻緒すげ」「寄席」「人相書き」「せっぽくびすとるず土産物屋」が出現予定。夜19:00から、農村歌舞伎舞台でのワンマンライブを敢行。

切腹ピストルズ | 「日本を江戸にせよ！」を合言葉に、野良着で暮らしながら、和楽器による演奏を全国各地で繰り広げる。脱原発デモや地方再生催しなど神出鬼没な演奏を得意とし、地方探索と研究、映画、職人、農、寺子屋など、隊員それぞれ別の活動も展開。その主張、風貌から「江戸へ導く装置」と呼ばれる。

四国村作品

ラム・カツィール  
《Suitcase in a Bottle》



イスラエル出身の作家は移民と絶滅の問題を題材に作品制作するアーティスト。旅行が簡単になるにつれ、1つの場所への定住が困難となった昨今、旅行熱とは逃避なのか、あるいは精神の放浪なのだろうか。作品は住む家のない人々の心情を表し、私達の期待という荷物が未知なる方向へと漂うように、人生の流れと、それが私達をどこに連れて行くのかという疑問を投げかける。精神的、また身体的な家に対する切望は。作家がしばし自身の作品の中に多用するスーツケースの中に、まるでボトルの中の精霊のように包み込まれている。

ラム・カツィール | 1969年イスラエル生まれ、アメリカとオランダで美術を学び、1990年からアムステルダムを拠点に活動する。

屋島山頂作品

金氏徹平《S.F(Smoke and Fog)》

屋島や、そこから見える瀬戸内の風景の場所の特性として浮かび上がる、人為と自然の形や空間の関係性、観光と生活、廃墟と生きた建築、現在と歴史、歴史と伝統、山と水族館、コンクリートと岩盤など。それらが混ざり合った状態から着想し、大型看板型の写真作品などによるインスタレーションを制作する。

金氏徹平 | 1978年、京都生まれ。2001年京都市立芸術大学在学中、ロイヤル・カレッジ・オブ・アート(ロンドン)に交換留学。2003年京都市立芸術大学大学院彫刻専攻修了。プラスチック製品や雑誌の切り抜き、おもちゃなど身の回りの物を収集し、コラージュの手法で作品を制作。彫刻、インスタレーション、絵画、写真、映像から舞台美術や装丁など表現は多岐にわたり、近年ではミュージシャンや写真家など様々なジャンルの専門家と積極的にコラボレーションを展開している

演劇 | E25

10.5 sat (開場18:30)

サファリ・P「悪童日記」  
Safari・P “Le Grand Cahier”

【会場】 屋島・四国村

【料金】 前売り¥2,000、当日¥2,500  
バスポート割引¥2,300  
小中高¥1,500(前売り・当日とも)  
※8月下旬よりチケット販売予定



(あらすじ)戦争が激しくなる中、祖母の家に疎開した双子。しかし祖母は二人を労働者として酷使する。双子はこの悪夢を生き抜く為に、自らの精神と身体を鍛え始める。戦況は厳しくなるが、双子は靴屋・将校・神父など様々な人間に助けられ、時には利用し合って生き延びていく。そして戦争が終わる、父が訪ねてきた。その時、二人がとった行動とは。

サファリ・P | 2015年7月、利賀演劇人コンクール2015にて「財産没収」(作:テネシー・ウィリアムズ)上演。優秀演出家賞一席を受賞。メンバーは高杉征司、日置あつし、芦谷康介、達矢、池辺茜、森永恭代、朴建雄、山口茜の8名(2018年8月現在)。パフォーマー(俳優・ダンサー)・技術スタッフ(照明・音響)・演出部(演出家・ドラマツール)からなる劇団。既成戯曲・小説から作品を立ち上げる。物語の底に伏流する作者の生い立ち、時代背景などを重視してテキストを紐解き、独自の身体性と発話により舞台化する。

東京藝術大学×シカゴ美術大学付属美術大学

「グローバルアート共同プロジェクト」  
(香川県・東京藝術大学連携事業)  
展示期間:8月20(火)～11月4日(月)



今回で3回目の参加となる東京藝術大学は、シカゴ美術大学附属美術大学と香川県の共同プロジェクトとして、両大学の教員、大学院生合わせて総勢約30名による共同展を開催。シカゴと香川・瀬戸内でのフィールドワークを通して、異なる文化の観点に触れながら、固有の歴史と文化を互いに受容し、応答していくプロセスを経て、四国村で滞在制作を行う。作品は、四国村の貴重で多様な古民家や変化に富んだ園内全域を会場に展開する。

東京藝術大学 | 日本で最も歴史を有する国内唯一の国立総合芸術大学。香川県とは、2001年以来、連携事業を実施。2018年に、香川県との連携協定を締結(都道府県としては全国初)。シカゴ美術大学附属美術大学 | アメリカを代表する美術大学で、母体のシカゴ美術館は、アメリカの三大美術館に数えられる。東京藝術大学とは、2015年から、香川県とは、2017年以降継続してPJを実施。

